

ギャラリー・インフォメーション



*日程・内容は変更される場合があります。最新情報は各主催者へお問い合わせください。

Gallery Information

埼玉県立近代美術館一般展示室 展覧会情報

※掲載はファミス会員であることが条件で、掲載料は無料です。

ヤクモタロウ個展 「本能 -instinct-」

2024年7月9日(火)~7月14日(日)
一般展示室 4

これまで発表した作品シリーズのマスターピースを集めた初の大個展。アーティストの人生も赤裸々に振り返り、人間としての内面と、生み出す作品との繋がりを垣間見られる展示になっています。



現代美術家ヤクモタロウ

第50回記念 埼玉二紀展

2024年7月16日(火)~7月21日(日)
一般展示室 1~4

二紀会埼玉県支部所属作家展。昨年10月の第76回二紀展の受賞作家の特別展示のほか、大作を中心に約100点の作品を展示。



昨年の会場風景

岡部文明のサーカス展 —魅了され追い求めた50年—

2024年7月23日(火)~8月4日(日)
一般展示室 1~4

50年に渡るサーカスと道化師を追う旅...その時々的心境や世界の状況を映しながら、サーカスへの愛とほれ込んだ道化師たちを生涯一貫して表現し続けた画家、岡部文明。その情熱に迫り足跡をたどる約140点を展示。



「CIRCUS BOKABE 劇場(鳥と遊ぶピエロ)」

tuk × line

2024年8月27日(火)~9月1日(日)
一般展示室 4

田中裕貴 (painter) 東京藝術大学卒。公募展にてグランプリ、内閣総理大臣賞を受賞する。安藤大地 (designer) 自身のブランド "Terre." を展開する新進気鋭の若手洋服デザイナー。



"Terre." Over Anorak

ヨシズミトシオ個展 ありあるクリエイションズ 藝術企画

2024年10月22日(火)~11月3日(日)
一般展示室 4

新・近作の油彩画、水墨画、銅版画、表現の可能性の展示。海外で開催されました国際トリエンナーレの受賞作品も併せて発表いたします。御高覧戴きましたら幸いです。



前回の会場風景

ここが見どころ!

表紙解説: 加藤勝重の人と作品 Spot Light

加藤 勝重

(かとうかつしげ)
1914 (大正3) 年~2000 (平成12) 年

さいたま市に生まれる。川端画学校で洋画を学ぶが、やがて日本画に転向する。1940年院展に初入選。48年奥村土牛(とぎゅう)に師事する。院展で7回奨励賞を受賞。埼玉県展の運営にも尽力。人を容易に寄せつけないような深遠な山岳風景を緻密で壮大なスケールで描き続けた。

表紙作品

《響》(ひびき)

1986 (昭和61) 年
彩色、紙
205.5×170.0cm
埼玉県立近代美術館蔵

加藤勝重は火口や滝など、人を容易に寄せつけないような雄大で神秘的な山岳風景に挑んできました。この作品は円熟期を迎えた作者の代表作です。黒部の奥深く、深山の渓谷から段差のある滝が煙霧の中を勢いよく流れ下るスケールの大きな作品で、山肌を流れる幾筋もの水流の繊細な描写や緊密な絵柄がみごとです。古来、日本の神は神秘的な深山や滝や河、また巨木や巨石といった自然の造化そのものであり、神体として描かれた鎌倉時代の《那智滝図》は最も有名です。この作品も壮大な空間にただよう自然の霊気が伝わってくるような精神性の高い作品といえるでしょう。



賛助会員名簿/私たちは美術館を応援しています

(2024年3月30日現在)

特別賛助会員	浦和興産(株) (株)ガイロ 税理士法人さかえ会計 (株)テレビ埼玉 (株)細井技研 (株)万世 (株)明成 ベベロネ	(株)エフエムナックファイブ (株)埼玉りそな銀行 (株)上州屋リビング 日本畜産興業(株) 丸沼芸術の森 (株)武蔵野銀行
法人賛助会員	(株)ギャラリー藤井 埼玉書道三十人展実行委員会 CAF.N協会 (一社)新構造社 埼玉支部 武蔵野美術大学卒業生会	群炎美術家協会 埼玉支部 埼玉二科会 社会芸術/ユニット・ウルス 見沼100年構想の会
個人賛助会員	一瀬 謙輔 鈴木 千賀子 野口 真理 岡田 謙司 高崎 考一 廣澤 公太郎 岡部 美代子 高橋 碩子 丸山 晃 小松 弥生 滝沢 布沙 横尾 嘉子 小森 光子 都築 松子 清水 武司 根岸 和美	

fam.s museum shop 便り

雨の日に気分を明るくしてくれる傘が入荷しています。傘生地も骨も8色の美しい色合い。ユニークな持ち手はビニール傘とはいえ、耐久性に優れ風に強いプラスチックの骨、自分で張替え可能なビニールの傘生地を用いた、持続可能な傘です。



2,750円(税込)

日本では年間6000万本ものビニール傘が捨てられ、分別できず埋め立てられているそうです。ものづくりの在り方を変えたいという理念で作られたあたらしいビニール傘を、楽しく使い続けてみませんか。骨の色がシンプルなタイプや、傘生地がドット柄のタイプなどもございます。ぜひ広げてご覧になってみてください。(T.Y.)

編集後記

今回、初めて開催した会員のための「作品展」は出品者、来館者、スタッフ、全ての方が協力し合い、関わり、交流する素晴らしいフェスティバルでした。その『ファミフェス』をもっと多くの人に知らせたい!伝えたい!そんな思いを込めて特集しました。会員の皆様の情報ツールの一つにして頂けるような会報誌。そんな交流する「ファミス通信」を今後ともお見逃しなく!(N.K.)

ファミス通信 第51号 2024年5月発行
広報委員◆秋本圭美/安藤恭子/野口恵子/森幹枝
紙面デザイン◆木村昭司
発行者◆埼玉県立近代美術館フレンド事務局
〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1 埼玉県立近代美術館内
tel 048(824)0111 fax 048(824)0119



ファミスのキャラクター「ファミちゃん」
©fam.s.kei

fam.s (ファミス) とは

About fam.s

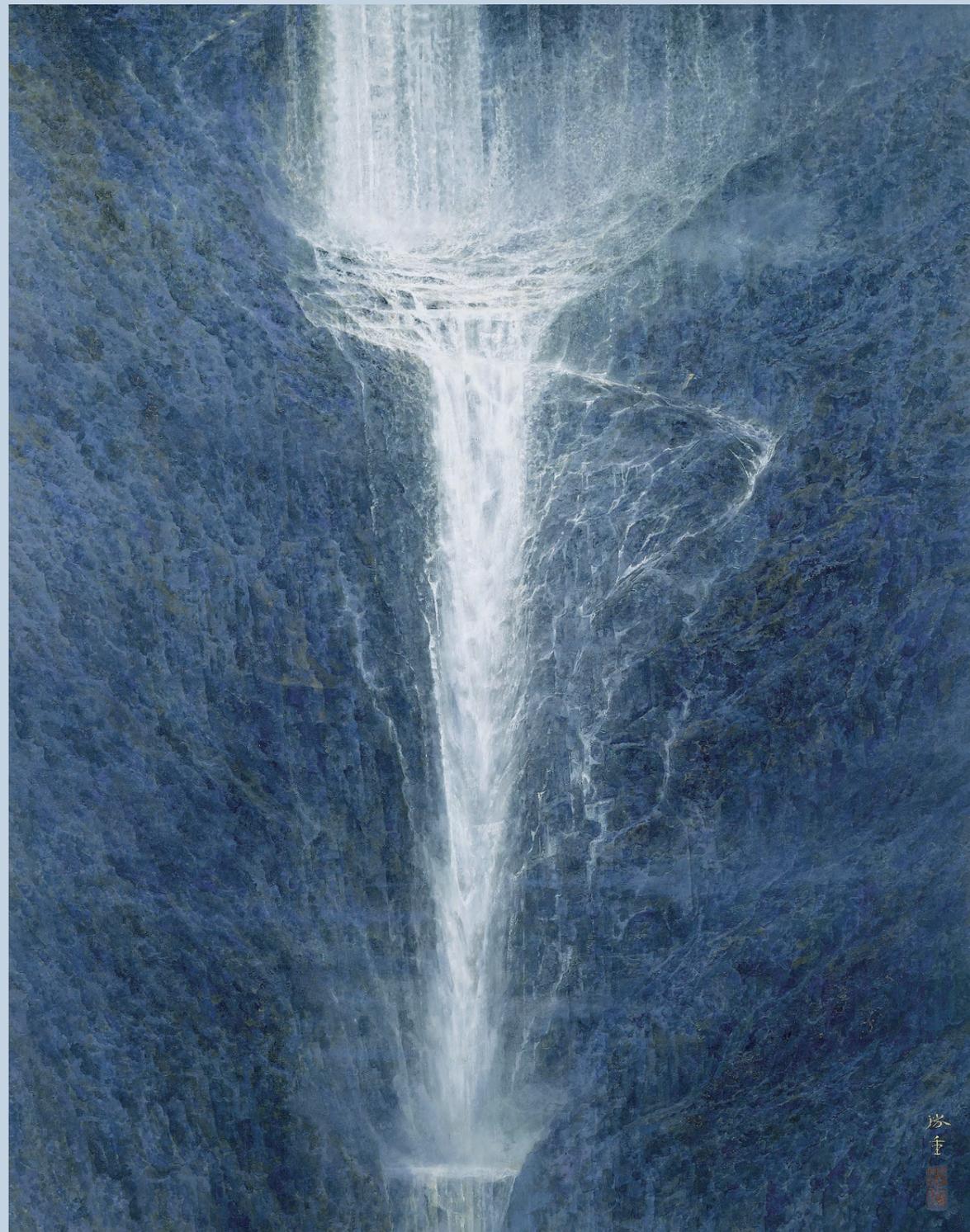
埼玉県立近代美術館フレンド (friends of art museum, saitama) の愛称です。fam.s会員は、会員期間内の企画展・常設展を何度でも観覧できます。会員限定のギャラリートークやイベントのお知らせ、ショップなどの優待もあります。入会は随時受け付けています。詳しくはフレンド事務局までお問い合わせください。HPはこちら▶



※ファミス通信は年2回、5月と11月に発行しています。

fam.s ファミス通信 No.51

friends of art museum, saitama



勝重

第1回ファミスフェスティバル2024



人と人をアートでつなく、
初めての会員作品展を開催しました!

1/23(火) → 28(日)
埼玉県立近代美術館地下 一般展示室4

ここ数年、感染症対策のため、埼玉県立近代美術館友の会「ファミス」では、これまで定期的に開催して好評を得ていたアートをめぐる「バス見学会」や、建築をめぐる「探訪会」などを見送っていました。

ようやく昨年より、そろそろ活動を再開できるのではないかと、という声が聞こえてくるようになりました。そこで、ファミス企画委員会では、これからの活動について話し合いを重ねました。これを機に埼玉近美に来てもらえるようなイベントも企画したいという提案から、これまでの見学会や探訪会に加えて、ファミスの会員同士の交流を深められるような場を作りたいという構想へ広がりました。

それならば、ファミスの会員のみなさんは、きっとアートの好きな方々。日頃から作品を創っている方も多し、団体展に出品している会員もいる。会員なら、だれでも自分の作品を出品できる、無審査の作品展をやってみようじゃないかと、その実現に向けて立ち上がりました。

会員同士をアートでつなげたいという考えのもとに生まれたこれまでに類を見ない展覧会が、今年1月23日より埼玉近美の一般展示室にて開催されました。

ネーミング

「ファミス作品展」というタイトルでは、出品をする会員だけの展覧会になってしまう。出品する人も来場する方々もみんなと一緒に楽しめる、そんなお祭りのような場にできないだろうか。

企画委員の思いをこめた展覧会のタイトルは、『アートでつながる作品展 ファミスフェスティバル』に決定!人と人をつなぐアートの力を発揮できる展覧会の名称はこうして生まれました。

作品の募集

県展や団体展に出品経験のある企画委員会のメンバーが中心となって出品要項を作成し、絵画・版画・彫刻・工芸・写真・書の6つの部門から募集をすることになりました。初めて開催する会員のための展覧会に、作品を出品したいという会員がどのくらいいるのか全く読めないという大きな不安を抱えていたなか、蓋を開けてみると思いのほか反響が良く、あっという間に定員をはるかに超えての締め切りとなりました。



搬入受付は...
てんてこまい



展示作業は
「そこ、気をつけて!」

搬入・レイアウト

搬入当日は、ミュージアムショップや広報委員会のメンバーもお手伝いとして参加。出品者全員が同じ時間の搬入では会場内が混み合うので2部制にしました。それでも、受付では作品の裏につけるラベルのチェックに始まり、作品の掛けひもの有無、美術館専用のゴム製の鉤とフックの貸し出しなど、ひとりひとりの確認と対応に追われました。あらかじめ、展示の作業がスムーズに進むように出品される作品の大きさやジャンルを考慮して、作品の展示スペースを決めておきました。そのシミュレーションに基づいて、作家の方々が展示の作業をしました。特に高い位置に設置をする作品や脚立を使う作業は、スタッフも一緒に手伝いながら慎重にすすめました。

事前に出品される作品の情報を把握してはいたものの、平面と立体の作品をどのように配置をするか、会場内の空間の使い方や隣同士の作品のバランスをみることはとても重要なことでした。搬入時間終了ギリギリまで調整をしました。展覧会を設営するというの大変さを痛感しました。



会場風景

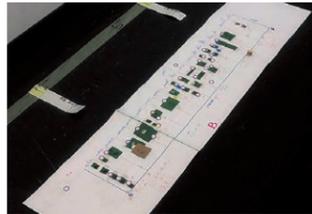


会場風景



展示台の組立て

事前に作られた展示レイアウト



片山奈桜子さん《まど》

私の作品は、中学校の美術の授業以来です。この作品は参加が決まってから制作しました。私にとっては心踊る色塗りあそびとやってみたい表現の実験でした。ここでは窓の外に広がる海と空は空間、昼と夜は時間を表現しています。地下展示室に明るく窓を開けてみたて作りしました。楽しかった! 一生に一度は自分の作品を美術館に飾れたら面白いなと思っていました。作品を壁に設置する方法がわからなくて手助けいただいたこと、作品を覗いてくださる方がいたことなど、私にとっては素晴らしい経験となり、嬉しくありがたい思い出ができました。

山口素子さん《舞蝶》他1点

ファミスの会員になってから、埼玉近美で様々な展示を楽しむようになりました。そして「自分も参加してみたい」という気持ちになり今回の出品を決めました。工芸の中で蒔絵を選んだのは、日本の伝統的な技法の工程に興味を持ったからです。私にとって、漆の魅力は、日本の風土と密接に結びついて継承されている貴重な素材であり資源であることです。皆さまと交流できたことが嬉しく、様々な分野の作品を拝見してとても勉強になり、これからの制作の活力にもなりました。



頭司俊史さん《日の出、イスタンブール》

モネの《黄昏、ヴェネツィア》という作品が好きで、水彩で同じ構図の作品を描いてみたいと思っていました。イスタンブールは私がこれまで訪れた中で最も夕陽や朝陽の美しい街です。アヤソフィアの、4本のミナレットからなる縦の線と、横に広いドームの丸い線の組み合わせを絵にしたら面白くなると思いました。美術館や画集で絵を鑑賞する日々の中で、「作る側に回りたい」という欲求が芽生えていたこともあり、今回の機会に、キャンバスに絵を描くということを数年ぶりにやってみました。また、私の勤務する学校の生徒達も見に来てくれて、彼らにも喜んでくれたので良かったです。

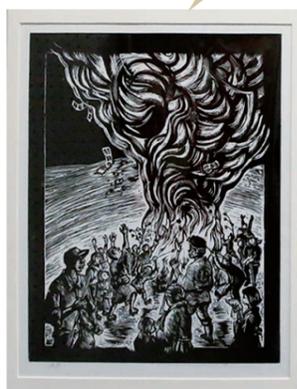


和田貞勇さん《昭和の記憶—どんどど焼き—》他1点

私の好きなこの美術館に展示していただけて、とても嬉しかったです。いろいろな方の作品に刺激をいただきました。私は93歳になります。以前は、白日会で油絵を、二科会ではデザイン部門に出品していました。木版画は私が小学校の図工の教員をしていた頃に始めました。この作品展のことを知り、夏以降、久しぶりに制作し始めました。木版画でこんなに大きな作品を制作したことは初めてです。これをきっかけに、これからも木版画で作品を作っていこうと思いました。

林田 理さん《EXIT》

タイトルの《EXIT》は美術館に迷い込んだ猫の「脱出口」という意味です。作品を作ることで閉塞感から抜け出したいという気持ちもあつたかもしれません。ストーリーとコマ割りには時間をかけました。この美術館に困った作品にしようと思いました。大変だったのは美術館の出口を模した立体作品の上部と扉の作り込みです。素材は、骨組みと扉部分はベニヤ板、桧工作材、蝶番。壁面はステンボードとリメイクシートに着色したもの。非常口マークはプラ板、PCで作成したシールです。絵柄と立体作品のギャップは初めから意識していました。物語の猫が実際に「脱出口」を通過したかのような作品を目指しました。私の作品を喜んでくださる方がいてとても嬉しかったです。埼玉近美収蔵の作品をたくさん描きました。それがとても楽しい時間でした。



最終日は交流会を開催

フェスティバル最終日は、出品してくださった作家の方々の解説を聞きながら、その場にいる皆さんと語り合う「交流会」を設けました。作品にこめた想いやアイデア、また制作の工夫やライフスタイルにまで話が及びました。初めて出会う会員同士にもかかわらず、活発な意見交換の場となり、これまでのファミスのイベントでは見られなかった新たな交流が生まれていました。



熱気あふれる交流会

ファミスフェスティバルを終えて

初めての会員作品展開催までの道のりは、まさに手探り状態でした。しかし、企画委員は一致団結、アイデアも続出し、何とかオープンにこぎつけました。搬入・展示終了後、創ることの楽しさが伝わってくる、ユニークな作品の数々を眺めていて、アートは自由でいいんだという、当たり前のことに改めて気づかされました。そして、この作品展のコンセプト「アートでつながる」は交流会の場だけではなく、日々、会場で実現されていたように思います。出品者、来場者、スタッフみんなで作り上げた祝祭空間「ファミスフェスティバル」でした。

次回ファミスフェスティバルのお知らせ

次回の会員作品展「ファミスフェスティバル2025」は、以下のとおり実施する予定です。詳細は追ってご案内いたします。

- 1.会期：2025年2月11日(火)～16日(日)
- 2.会場：埼玉県立近代美術館一般展示室4